

「牧園中学校の天孫降臨霧島九面太鼓伝承活動の取組」

1. 学校名	霧島市立牧園中学校
2. 学年・人数	3年生 29人
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和7年10月2日～30日 牧園中学校体育館 (2) 発表の日時・場所 令和7年10月31日 牧園中学校文化祭
4. 伝承・活用に 取り組んでいる 郷土芸能、伝統 行事、伝統工芸 品について	(1) 名 称 霧島市指定文化財 天孫降臨霧島九面太鼓（てんそんこうりんきりしまくめんだいこ） (2) 由 来 霧島九面太鼓は昭和47年、霧島温泉商工会青年部が郷土芸能創作を目的に考案された。霧島神宮に伝わる九つの面を用い、天孫降臨の神話を太鼓と舞で再現する。九面は約300年前、石工の海老原源左衛門が祈願のため奉納したとされ、拝むと「工面が良くなる」と信仰された。現在は霧島神宮で元旦に奉納され、霧島市の無形文化財に指定されている。 (3) 構成等 霧島九面太鼓は九つの神々の面を付けた舞手と太鼓打ちで構成される。舞手は白や薄紫の衣をまとい、天孫降臨の神話を所作で表現。太鼓は力強いリズムで神々の降臨を象徴し、ホラ貝の音が荘厳さを添える。演目は猿田彦が道を開き、瓊瓊杵尊が高千穂峰に降りる場面を中心に展開。太鼓と舞が一体となり、幻想的な雰囲気の中で神話世界を再現するのが特徴。
5. 文化財伝承・ 活用の取組にお いて地域との連 携や工夫した点 等	牧園中学校では総合的な学習の時間に九面太鼓の演奏を取り入れ、霧島九面太鼓保存会「和奏」から歴史や所作を学んだ。バチの握り方や礼儀作法を習得し、演奏には学級をイメージした掛け声や動きを加える工夫を実施。地域の保存会と連携し、毎年文化祭で発表することで、生徒が郷土芸能の魅力を経験し、伝統継承への意欲を高めている。
6. 取組の様子 (練習状況、発 表の場等)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>練習風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>文化祭で披露</p> </div> </div>
7. 感想・意見 (参加児童生 徒・保護者・ 保存会・教員 等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 九面太鼓の練習をとおして、将来牧園を離れても、この素晴らしさを出会った人に伝えたいと思った。【生徒】 ○ 生徒だけでなく、教員も呼吸を合わせて演奏する楽しさを味わえた。【教職員】 ○ 牧園ならではの貴重な体験であり、地域文化を学ぶ意義を実感した。【教職員】 ○ 地域に伝わる伝統芸能に触れることは非常に有意義である。【保存会】 ○ 九面太鼓の学習を通じて、故郷に誇りを持ち、継承していく意欲が育まれるだろう。【保存会】